

国際サービスシステム メンテナンスニュース

VOL.3
2000/8/31

国際サービスシステム(株)

ブレーキパッドの話

今回は点検やメンテナンスを怠ると大事故、高額修理につながるブレーキパッドの話です。

実際にあった事例！

仕事が終わリモータープールへ回送途中、他のドライバーの注意で車両を降りてみると、右前のタイヤ付近から火災を起こしていた。あわてて消火器で火を消し国際に連絡した。サービスマンが到着点検した結果ブレーキパッドの残量が無くブレーキキャリパーピストンが飛び出しブレーキオイルが漏れ、ブレーキローターとブレーキパッド鉄板とが接触しその摩擦熱でオイルに引火し右前タイヤ付近より火災が発生した。当然車両は走行できず牽引車にて工場に搬入された。この事例、修理金額はタイヤまで焼損していた為、約150万ほどかかりました。



上の写真はお話した事例とは違うものですが、危うく事故を起こしそうになった車両の無残なブレーキローターとブレーキパッドです。

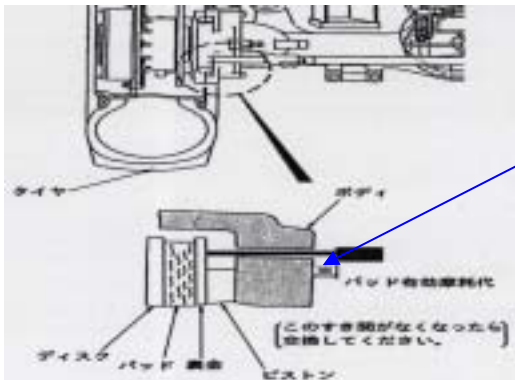
こんな事をおこさないために！

ブレーキパッドは重要保安部品であると共に高額な部品です。(25Tonクラスで部品代30万前後) 早期に交換する事は機械のランニングコストを上げます。又少しでも交換時期が遅れば大変な事になってしまいます。

ここで一番大切な事は一にも二にも日常の点検と考えます。

そんな事は判っているとバカにせず、こまめにブレーキパッド残量を点検する事をお願いします。

点検方法として各メーカー、機種により違いますが、ブレーキキャリパーに点検ゲージを差込残量を見るものが大半です。



点検方法

1. アウトリガーを最大張り出しにしてクレーンを設置してください。
2. ブレーキキャリパーの点検穴に点検ゲージを挿入して点検します。
3. この隙間が無くなったら使用限度です。

すぐ国際サービスへ連絡してください。

(点検方法はメーカー・機種により違います取り扱い説明書を参照してください。)

* 注意事項

この点検方法は簡易的な点検方法です。この方法ですと外側のブレーキパッド残量は点検できません。

(ブレーキパッドは決して均一には摩耗しません。)

隙間が少なくなってきたり、少しでも不信を感じるようでしたら

国際サービスへ連絡して下さい、入工して点検する事をお勧め致します。

判らないこと、不明な点がありましたら連絡してください。